



Market Eyes No.177

『積立投資(ドル・コスト平均法)』のすすめ

大和投資信託

- 投資を始める際、頭を悩ます問題として、『①いつ買ったら良いのか？わからない。』『②価格が下落した時、不安になる。』の2つが挙げられる。
- これらの問題を軽減する投資手法として、1940年代、米国で『ドル・コスト平均法』いわゆる『積立投資』が考え出された。

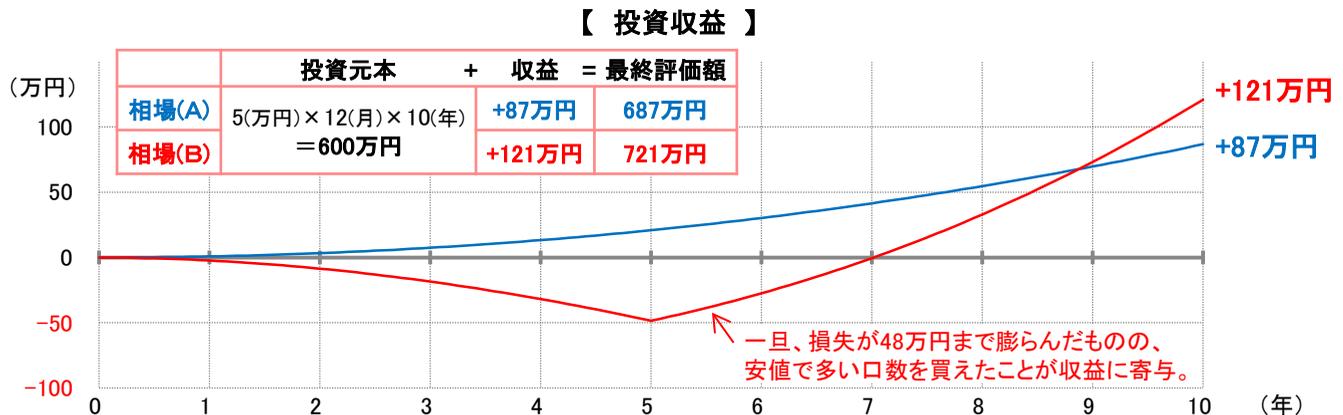
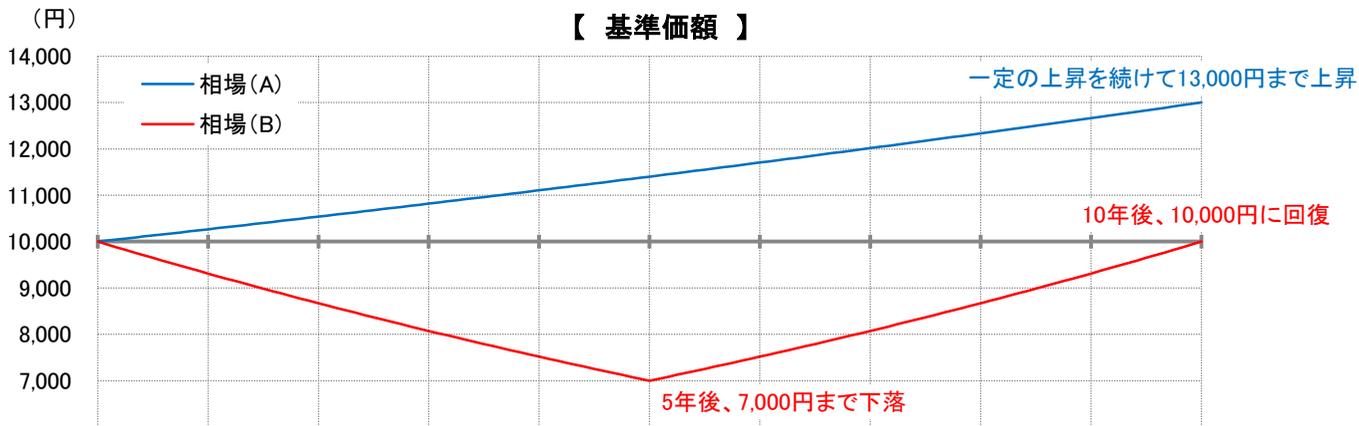
■ ①いつ買ったら良いのか？わからない。

- 投資を始める時に、最初に頭を悩ますのが『いつ買うか？』という買い時の決断である。買い時の決断の難しさは、昔の投資の格言『もうはまだなり、まだはもうなり』にも表されている。昔の相場師も買い時の決断には頭を悩ましたようだ。
- 投資商品は日々価格が上下するので、一度にまとめて買い付けると、タイミングによっては高値掴みをするリスクがある。
- 『ドル・コスト平均法』は一定金額のお金を定期的(=毎月)に買い付けていく投資方法である。買付けのタイミングを分散することで、高値で買いすぎたり、安値で買い損ねたりするリスクが回避できる。これで買い時の決断で悩むことから開放される。

■ ②価格が下落した時、不安になる。

- 『ドル・コスト平均法』は、一定金額の買い付けを継続するので、価格が下がった時には多くの口数を、価格が上がった時には少ない口数を買い付けることになる。結果的に平均購入単価を抑えることが出来る。
- その具体例を図表で見てみよう。
【相場(A)】は、基準価額が毎月一定の上昇を続けたと仮定、10年後の基準価額が13,000円にまで上昇した場合である。
【相場(B)】は、5年後に基準価額が7,000円まで下落した後、10年後に投資開始時の10,000円の水準まで回復した場合である。
- 普通で考えると、**相場(A)**の方が高いリターンを得られた様に見える。しかし、結果は**(A)**の収益が+87万円、**(B)**の収益が+121万円と、**(B)**が34万円ほど多くなっている。**(B)**の場合は基準価額が安くなったところで多くの口数が買えたので、10年後のリターンは**(B)**が大きくなった算段である。

【図表】 積立投資シミュレーション (投資期間:10年間、毎月5万円ずつ投資)



※上記は将来の投資成果を示唆・保証するものではありません。価格が長期間下落し続けた場合など、上記のような投資成果を期待できない場合もあります。
 ※上記は税金等諸費用を考慮していません。

投資信託の留意点

以下の記載は、金融商品取引法第 37 条により表示が義務付けられている事項です。お客さまが実際にご購入される個々のファンドに適用される費用やリスクとは内容が異なる場合がありますのでご注意ください。ファンドにかかる費用の項目や料率等は販売会社や個々のファンドによって異なるため、費用の料率は大和投資信託が運用する一般的なファンドのうち、徴収するそれぞれの費用における最高料率を表示しております。また、特定ファンドの取得をご希望の場合には、当該ファンドの「投資信託説明書（交付目論見書）」をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので必ずご覧いただき、投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。

お客さまにご負担いただく費用

ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。

直接的にご負担いただく費用

購入時手数料	料率の上限は、 3.24% (税込) です。
換金手数料	料率の上限は、 1.296% (税込) です。
信託財産留保額	料率の上限は、 0.5% です。

保有期間中に間接的にご負担いただく費用

運用管理費用 (信託報酬)	費用の料率の上限は、 年率2.1816% (税込) です。
その他の費用・手数料	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。(その他の費用・手数料については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)

※ 手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ ファンドにより異なりますので、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※ 詳細につきましては、「投資信託説明書 (交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドのリスクについて

ファンドは値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。また、新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。リスクの要因については、ファンドが投資する有価証券等により異なりますので、お申込みにあたっては、ファンドの「投資信託説明書 (交付目論見書)」をご覧ください。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

〈委託会社〉

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- ◆当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和証券投資信託委託株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書 (交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- ◆当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.24200%（但し、最低 2,700 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により売買する場合は、その対価（購入対価・売却対価）のみを受払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、債券の発行者または元利金の支払いを保証する者の財務状況等の変化、およびそれらに関する外部評価の変化等により、損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式、外国債券の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会